



創刊号!!

ひきよせ

01 hikiyose
2021-2022



日置の魅力を
私たち、中学生がお届けします
あなたも見えない糸で
引き寄せられるかも!?



地域資源 × 人 × 中学生
でつくる新しい日置
日置はまだまだおもしろい!!



たくさんの方に応援していただいたおかげで、
クラウドファンディングで目標金額の 600% を達成しました！
皆さま本当にありがとうございました！

日置中学校生徒一同

《フリーマガジン・クラウドファンディングの感想》

卒業生 Eさん

私は、クラウドファンディングをやってみて、本当に良い経験になりました。全校生徒のみんなと、先生とTETAUの方と力を合わせて、インスタグラムという小さな活動から、フリーマガジン、クラウドファンディングという活動に繋がり、たくさんの人の支えや協力で60万円を超える金額まで到達し、がんばって良かったなと思いました。そしてたくさん思い出ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を通して自分自身どう変わっていきたいかはまだ考えていません。でも自分自身で進んでいきたいと思います。これから日置がたくさんの人に包まれて、たくさんの笑顔に包まれるステキな日置になってほしいです。これまでがんばれたのは、たくさんの人のおかげです。本当にありがとうございます。支援していただいた分を倍で返せるぐらい私たちも、もっとがんばります。

卒業生 Yさん

フリーマガジンの文をみんなで協力しながらつくるのがとても難しかったです。でも、TETAUさんや先生方、地域の人たちのおかげで完成させることができた時は、とてもうれしかったです。今後役に立つと思います。そして、少しでも日置が明るくなればいいと思います。クラウドファンディングに協力していただきありがとうございました。

3年生 Tさん

ご支援ありがとうございました。クラウドファンディングをはじめてやってみて、こんな方法でも資金を集めることができるんだないうことが分かりました。これからは支援をいただいた方にもっと日置を知ってもらいたいです。また、ご支援いただいた資金は、フリーマガジン第2号の発刊などに使いたいと思います。

2年生 Kさん

このプロジェクトを支援していただき誠にありがとうございます。みなさまからのご支援で、日置を活気あふれる町にしていきたいです。これからも応援してください。よろしくお願ひいたします。

1年生 Tさん

クラウドファンディングをしてくださりありがとうございます。入学したてで、まだわからないこともあります、先輩たちのように頑張り日置を活気あふれる町にしていきたいと思います。

ひきよせ

01 hikiyose
2021-2022

発行 白浜町立日置中学校
住所 〒649-2511
和歌山県西牟婁郡白浜町日置979-2
電話 0739-52-2070
Instagram @hikityu2019



私たちは、2年前からアーマを「活気あふれる日置の町づくり」と

して総合的な学習に取り組んでいます。一昨年はインスタグラムを開設し、現在、魅力的な日置の町の写真を投稿しています。昨年は、引き続きインスタグラムに写真を投稿する他、まず自分たち自身が町を知ろうということで、地元白浜にある企業や施設を訪問し、町の良さを学びました。

しかし、それではまだ多くの人たちに私たちの思いは届かないと感じたので、日置の魅力をもっと発信できる方法を考えました。そこで、今年はフリーマガジンを作成することにしました。

ひきよせ

01 hiki-yose
2021-2022



田野井から

農業を広めたいー



白浜町田野井で農業をしている石田辰夫さん、常夫さん、晃大さん。(左から)



約60年、田野井に住んでいる石田さんは、ブロッコリー、ピーマン、レタスなどを栽培しています。田野井で農業をしている理由は農地が多いからだそうです。

そんな石田さんの田野井のおすすめの場所は、日置川、田野井池、中山城跡だそうです。石田さんに田野井での農業や地元の良いところ、10年後どうしていったいかや中学生に期待していることなどをお尋ねしました。

新型コロナウイルスの影響で売り物にならない野菜は家で食べたり、お土産分けしたりできる限りは消費していますが消費しきれない野菜は廃棄されているそうです。農家さんにとって大きなダメージとなる台風が発生した場合は、クワなどで

株元に土を寄せる土寄せという作業をしていくそうです。

石田さんに日置や田野井の魅力について尋ねると「田野井の良いところは、不便なところもあるが、静けさがあり、電車の音が聞こえるところ。野菜を買わなくても近所の人々がくれるところ」と答えてくれました。

60年田野井に住む石田さんに、さらに10年後、どうしていったいかを尋ねると「もっと農業について勉強し、若い人たちに伝え、農業を残していく」と思っている」と農業への思いを話してくれました。石田さんが私たち中学生に期待していることは、「田舎に残り農業を受け継いでいくこと。そして、今の時代たくさんの人々が利用しているSNSで、田野井の農業をほかの地域に発信すること」です。



[石田生花店]
白浜町田野井888-1
TEL 0739-52-3012



CONTENTS

03	田野井から農業を広めたい 石田生花店 @田野井	10	総合授業・文化祭の様子 1年間のフリーマガジン作成の取組
04	新しい事に挑戦する渡船屋さん 小出渡船 @塩野	12	クラウドファンディングの取組 エコバック作り・生徒の感想
05	江戸時代から町を見守るお寺 正光寺 @日置	14	フリーマガジンを作ったよ! 3年生(卒業生)の感想
06	母の味を受け継ぐ60年の思い デリカフルーズくりやま @日置	15	おすすめスポット! あなたは、どこが好きですか!?
07	懐かしさを感じる古民家カフェ かぐれ @安宅	16	フリーマガジン制作・クラウドファンディングの 生徒の感想
08	日置の人や自然に魅せられて 荒木隆夫さん @日置		
09	都会と田舎を知る元アイドル母 江戸真樹さん @安宅		



母の味を受け継ぐ

60年の思いー

「デリカフーズくりやま」

精肉店を主にし、お店の商品を使ったミニチカツバーガーなどの食べ物を提供しています。

創業101年目で、3代目の栗山直文さんは、母、妻、息子と共にお店を営業しています。



懐かしさ感じる 古民家カフェ「かぐれ」



和歌山県田辺町安宅。自然豊かなこの場所で仲良し夫婦が経営するカフェ「かぐれ」は今年で7年目を迎えました。

ご主人が定年退職を迎えたことをきっかけに、ハンドメイドが得意な奥さんとともに何か始めてみようとしてスタートしたのがかぐれだそうです。

地元人の憩いの場となっている「かぐれ」は漢字で書くと「家暮れ」。

そこには「自分の家のようにゆっくりしていいってほしい」という思いが込められています。店内は、「一人がこだわりを持って作ったという椅子やテーブル、小物がたくさん置かれています。」

「日替わりランチ」と「手作りスイーツ」。料理に使われている野菜は、お店の近くにある畑で無農薬にこだわり、こちらも一から手作りされています。

お客様がたくさん来てくれるためにしている活動はあるのかを尋ねると、いつも心を込めて料理すること、手作りにこだわること、そんな中でお客さんがほつとできる居



[古民家カフェ かぐれ]
白浜町安宅444-2
営業時間:午前8時~午後4時
定休日:月曜日・第1日曜日

皆さんへメッセージ

消毒や換気を行っており、密集を避けるために外でも食べることが出来るスペースを作るなど感染対策も徹底しています。

2人でお店を初めて7年目。たくさんの手作りのものにふれ、少しでもほのぼのとした気持ちになっていたら嬉しいです。ハンドメイドの商品の販売も行っています。よかつたら一度見に来てください。

栗山さんによると「もちろん人気のメニューは、ミニチカツバーガーです。中に入っているミニチカツは、60年前、先代である母が作っていた、昔ながらの味と作り方を受け継いだものです。そのミニチカツを一つ頂くと、豚肉の甘みがあり、肉汁いっぱいです。さすが精肉店だな」と感じます。

お店を継ごうと思ったきっかけは、長男であったことと小さい頃からお肉を料理することが楽しいと思っていたからだそうです。百年という長い間、日置で精肉店を営み続けているのはすごいなと思いました。

一番嬉しかったことを聞くと「お客様が来てくれることがとても嬉しいことですが、一番嬉しいのは何年も会っていない人が来てくれることです」

そんな栗山さんに、日置の良いところを聞いてみました。すると「海、山、川がそろっているのが珍しく、時間の流れが自分に合っていて良いところ」と答えてくれました。また「海に落ちる夕日がきれいで、自然が多くお店が少ないのが逆に良い」と言いました。

なぜ、日置でお店を営むのか。それは、生まれが日置で住みやすいからだそうです。愛しい日置に、これが何より嬉しいと笑顔で話していました。

30年前に来ててくれたお客さんが、日置に来た時に「デリカフーズくりやま」を思い出して寄ってくれたことが何より嬉しいと笑顔で話していました。

なぜ、日置でお店を営むのか。それは、生まれが日置で住みやすいからだそうです。愛しい日置に、これが何よりも嬉しいと笑顔で話していました。

中学生に期待していることを聞くと「夢をもつて好きなことをしてほしい」「自分が決めたことを実行してほしい」と答えてくれました。私たちこれから、この言葉に応えられるよう、自分が決めたことを前向きに実行していくたいと思いました。

10年後、日置がどうなつていてほしいと質問すると「10年後には、アクトエイビテイバーが充実している日置になつてほしい」と言つていました。

中学生に期待していることを聞くと「夢をもつて好きなことをしてほしい」「自分が決めたことを実行してほしい」と答えてくれました。私たちこれから、この言葉に応えられるよう、自分が決めたことを前向きに実行していくたいと思いました。



メンチカツは衣がサクサクして、食べると肉汁が広がります。甘くて美味しい、そして安い!



[デリカフーズくりやま]
白浜町日置93
カフェ営業時間:午前11時~午後7時
定休日:水曜日・木曜日

日置の人や自然に

魅せられてー



荒木隆夫さんは、10年前に日置に移住してきました。

移住前は京都で保健体育の教師、支援学校で働いていて、現在は写真ボランティアとして活動しています。主に小中学校の行事などを撮影されています。行事に参加している理由は、学校のお手伝いをしたいからです。

日置中学校の生徒や小学校の児童のお写真を撮ってくださる荒木さんですが、撮ってくださるようになったきっかけは、人の役に立つ仕事をしたかったからだそうです。日置には山や川、海などのたくさんの魅力があり荒木さんもそこを

魅力を感じているようです。

荒木さんが中学生に期待していることを聞くと「勉強ができるようになつてほしい、優しい人に育つてほしい」とおっしゃっていました。

私たちも荒木さんにインタビューしてみて自分たちも知らない日置の魅力があることに気づきました。私たちが当たり前のよう捉えている「自然」は都会の人や、移住してきた人からすると「魅力」に感じるということが嬉しく思いました。日置で過ごしていく、移住してきた人からの意見は聞いたことがなかったので、今回、荒木さんの話を聞いて良かったです。



白浜町日置に住む荒木隆夫さん。現在は梅の収穫や農業など友人の仕事の手伝いをしている。

趣味はカメラ、陶芸、木工、卓球、バトミントン、ギター、絵手紙、せぎ漁、鮎のとも釣りなど。

3年間紀伊半島をめぐって「人がいい」「自然がいい」という理由で日置川町に引っ越してきた。

移住してきて10年の荒木さんに
インビューブをしてみました。

Qなぜ日置を選んだのですか?

3年間紀伊半島を巡り、自然も人もいいところだったから。

Q日置に住んでみてどうですか?

川や、海があって期待通りの所だった。

Q日置に移住することはいつから決めてましたか?

40代後半です。30代半ばから、海のそばに住みたいと思っていました。

都会と田舎を知る 元アイドル母ー

江戸真樹さん 白浜町安宅出身
中三で上京しアイドルを引退後、日置(安宅)
に帰ってきて以来、約30年間安宅に住んで
います。今は四児の母、孫が6人です~。



元アイドルで中学3年生の時に上京した経験がある江戸真樹さんは、現在自然豊かな日置(安宅)で平和に暮らしています。

上京をしてよかつたと思うこと、アイドルの仕事をやめた後のことなど詳しく教えていただきました。

「仕事をしていたころは、田舎ではできない経験や暮らししができ、自

分の気持ちが強くなれた」とおっしゃっていました。志村けんさんや、ビートたけしさん、所ジョージさんなど、大スターと一緒に仕事をしたこともあるそうです。

東京にいた経験がある江戸さんに、田舎と都会ではどちらの方が良いのかと聞いてみると「遊んだり旅行するなど様々な経験をするなら都会(東京)の方が刺激があって良いけど、静かに落ち着いた生活で暮らすなら田舎が良い」と教えてくれました。

そんな江戸さんに日置のおすすめの場所を聞いてみました。一番は志原海岸の綺麗な海だそうです。海の近くに「海来館」というお店があるので、デザートなどを買って海の景色を見るのも良いとおっしゃっていました。また、子供たちが釣つてきた魚がとてもおいしいです。

約30年ほど日置に住んでいる江戸さんは「今と変わらず自然がありながら人口が増え、もっと活気がありました。

最後に、これからどんな日置になつてほしいかを聞いてみました。江戸さんは「今と変わらず自然がありながら人口が増え、もっと活気があ

ある町になつてほしい。日置にある豊かな自然やおいしい食べ物などを積極的にアピールすれば人口が増えるんじゃないか」と提案してくれました。

江戸さんに取材をして、日置の良さについて、自分たちが思っている以上に知ることができました。今後、もっと日置の良さをたくさん的人に広げていきたいと思います。



いつもボランティアでお手伝いをしてくださる荒木さんは取材も笑顔でお答えしてくれました。

《取材・ページ編集の様子》

フリーマガジン作成の取組

私たちは、各班で協力してフリーマガジンの作成に取り組んできました。フリーマガジンを多くの人に見てもらえるよう、これからも皆さんのご協力お願いいたします。日置が有名になり、活気ある地域になるように私たちでつないでいきたいと思います。



取材の様子@かぐれ



取材の様子@デリカフーズくりやま



取材の様子@石田生花店



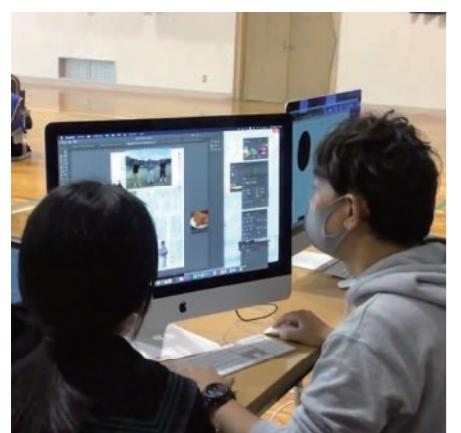
学校から歩いて5秒の海岸で撮影



日置の町並みでおすすめスポットの撮影



誌面構成の確認



TETAU山本さんと最終誌面確認



パソコンを操作しながら誌面構成



パソコンを操作しながら誌面構成

《総合授業・文化祭の様子》

総合授業の取組

私たちは、総合授業の中で様々なワークショップを通じて対話が大切だということを学びました。また、色々な業種の方に来て頂き話を聞くことができました。難しい内容もありましたが、楽しんで取り組むことで視野が広がったように思います。



石山さんとの対話のワークショップ



「コトシラ作ってみての」編集部の濱田さんによるフリーマガジン作成に向けての授業



小竹さんとのグラフィックレコーディングによる振り返りワークショップ



TETAU山本さんによるタブレットを使ったICT授業



神島高校生、那須先生による神島屋の取組の授業



下田さんによるいつもと違った視点から地域を見つめ直す授業

私たちはこのフリーマガジンを作成する費用を募金という形で集めています。1口1,000円からという高い金額となっています。この活動は、中学生がするのはとても難しいと言われていますが、私たちはどうにかこの日置を活気あふれる町にしたいと思い、難易度の高い課題に挑戦してきました。このフリーマガジンは生徒一人ひとりが一生懸命インタビューであったり、記事を作ったり、自分たちで写真を撮影したりしながら、私たちの想いをたくさん込めて完成に向けて取り組んできました。日置の活性化を願った私たち中学生にご協力していただけないでしょうか。1口1,000円からという高い金額となっておりますが、これからの日置のために力を貸してください。ご協力よろしくお願いします。



募金のお願いの様子



文化祭での募金の様子

《エコバック作りの感想》

3年 Eさん

私は黒のインクを使用しましたが、黒インクはすぐに乾いてしまい、何度も版を洗うことになり、とても大変でした。苦戦したところが多い分、最後の方では印刷がうまくいってすごく良いものになりました。とても楽しかったです。

2年 Sさん

作成時は服が汚れたりと大変なこともあったけれど、班のみんなと協力して、楽しく、集中してできました。1つ1つ、感謝の気持ちと、もらった人が笑顔で喜んでくれるように気持ちを込めながら丁寧に作りました。何度も失敗したけど、成功したときには先生や班のみんなと一緒に喜べたのでとても嬉しかったです。

3年 Yさん

班のみんなで協力して作業が出来てとても楽しかったです。でも、エコバックの持ち手やバッグにインクがこすれたりして、返礼品にできないものをいくつか作ってしまったり、塗っている間にインクが固まってしまい、うまく刷れなかつたりと失敗が多くて結構難しかつたです。でも、良いエコバックが仕上がったのでうれしかったです。

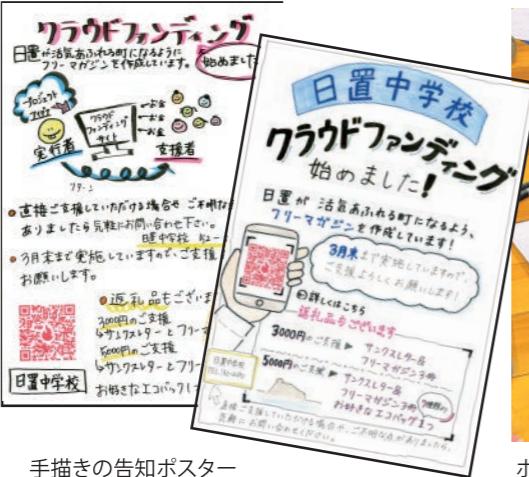
1年 Kさん

エコバッグのデザインを考えるのは意外とすぐに決まりました。そこからまずは紙に印刷する練習をしました。エコバッグに印刷する時にはイラストの位置を調整するのが難しかったです。でも、エコバッグに綺麗に印刷できてとてもうれしかったです。

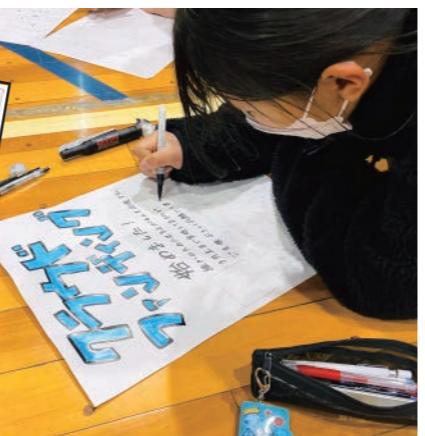
《クラウドファンディングの告知ポスター作り》



ポスター掲載のお願い



手描きの告知ポスター



ポスター作り



2月10日からスタートした『和歌山県にある日置の良さを多くの人に知ってほしい!!思いを届けるプロジェクト』は、日置中学校出身の方、日置に来たことがある方やご縁のある方、更に私たちの活動を知つて応援してくださつた方など80名を超える多くの方にご支援頂きました。たくさんのご支援と温かい応援メッセージ、本当にありがとうございました。

初めての取材や冊子作り、クラウドファンディングにドキドキしながらも、周りの先生や関わつて頂いてる皆さんのお陰で、無事に行つることができました。ご協力やフォローをして頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の経験を糧に、これからもどんどん色々なことに挑戦していきたいと思います。

《7種類のオリジナルエコバック作り》

クラウドファンディング取組

昨年度より総合的な学習をする中で、私たちがSDGsについても学習しました。私たちの町、日置は海に面しており、日置中学校は海辺にあります。海は私たちにとって学習の場であり遊びの場であり、いつでも生活の一部にあります。しかし、海が今とても危険な状態にあると知ったこともあり、私たちがSDGsの14番の目標「海の豊かさを守ろう」に注目しました。私たちが発生させるプラスチックごみの量が、2050年までに魚の量を上回るそうです。中でもマイクロプラスチックは、人間を含めた生態系全体への悪影響が問題となっています。こんな状態を知り、文化発表会の作文発表で、3年生の1人がこの問題について意見作文を発表しました。

そこで、全校生徒で改めてこの問題に向き合う機会をもつことができ、エコバッグの使用は私たちができる海の豊かさを守る取組の一つとなるのではないかと考えました。

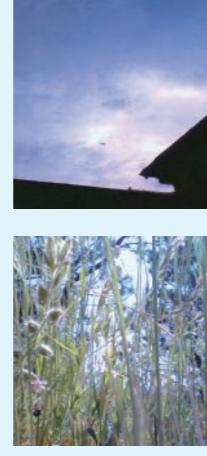
みんなにも私たちが作成したエコバッグを使用してもらい、SDGsについても考えてもらえるといいなと思い、返礼品を7種類の日置中オリジナルエコバッグにしました。





おすすめスポット！

日置中学校の周辺には、隠れたおすすめのスポットがたくさんあります。
その一部を私たちの目線から紹介します！あなたは、どこが好きですか？！



わくわく!
ドキドキ!!

《3年生(卒業生)の感想》

フリーマガジンを作ったよ！



熊本 未流

僕は、このフリーマガジンの作成を通して様々な経験を得ることができました。日本全域にこのフリーマガジンが広がり、興味を持って日置を訪れる人が増えてほしいと思います。この総合での活動がとても楽しかったです。



湯川 こもも

フリーマガジンの制作や取材にあたって、TETAUの山本さんや、神島屋さんなどにポイントを教えていただいていたので、頑張ることができました。多くの人がこれを見て、日置がどんな地域なのかを知ってもらえたらしいなと思いました。



横畠 光洋

とても難しい活動でしたが、各班みんなで協力してフリーマガジンを作ることができたと思います。そして、このフリーマガジンで日置のことをもっと多くの人に知ってもらいたいです。1、2年生には、これからもこの活動を続けてもらい、さらに良いものにしていって欲しいです。



江戸 美風

今回、フリーマガジンの作成をしてみて、初めて取材と撮影を経験しましたが、グループで楽しみつつも真剣に完成させることができました。この活動で、協力する力、意見を出す力が身につきました。とても良い経験になりました。



亀井 寛天

フリーマガジンを作つてみて、取材や撮影をするときは少し緊張したけど、グループで上手く文章や写真をまとめてフリーマガジンを作ることができました。これから地域の人にも改めて日置の魅力を知ってほしいし、移住する人もたくさん増えていって欲しいです。



岡地 拓斗

正光寺へ取材に行き、昔の日置や戦争の様子などを聞きました。取材したことをタブレットやパソコンを使ってフリーマガジンを作つていき、グループで話し合い、何度も修正しながら完成させることができました。このフリーマガジンで、日置の良さなどを知つてもらえたらしいなと思いました。



山本 真桜

フリーマガジンを作つてみて、取材先や地域についてたくさんのことを見つめました。このフリーマガジンを見て「楽しそうなところだな」と思つてもらえるように、これからもっとたくさんの人に知つてもらいたいと思います。

